

令和7年度 ひたち野うしく保育園つくしんぼ 保育所自己評価

評価の結果をふまえ、今後もより良い保育を提供できるよう努力していきます。
保育所保育指針において、保育者及び保育所の自己評価ならびにその公表が努力義務とされています。このことを踏まえて、当園では保育の質の向上を図るために、保育所の自己評価を実施いたしました。

評価の結果をふまえ、今後もより良い保育を提供できるよう努力していきます。

評価について

評価をするにあたっては、以下のような基準で評価を行っています。

◎ よくできている ○ ほぼできている △ 努力が必要

評価対象期間

令和7年4月1日から令和8年3月31日

評価責任者

園長 折本邦子



1. 保育理念

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
保育理念、保育目標を正しく理解し説明することができる	◎	入職時や全職員会議で保育理念、保育方針の確認を行っている。
保育園の園目標や方針が保護者に知らされている。	◎	入園時に入園のしおりを配布し、口頭で説明している。またエントランスに掲示してある。

2. 保育計画

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
保育計画を作成し見直しをもった保育を実施している。	◎	保育所保育指針に基づき、保育過程・年間計画・月案・週案を作成している。
年間計画・年間行事の見直しをしている。	◎	年度始めに保護者向けに年間行事のおたよりを出して知らせている。また天候や時期を見て実施日の見直しを行った。

3. 個人情報保護

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
個人情報の取り扱いをちて入園時に説明している。	◎	個人情報の取り扱いや情報の漏洩がないよう徹底している。また日々の会話等も重要な情報になることを意識し、細心の注意を払っている。書類等個人情報に関するものに関しては、鍵のかかる場所に保管している。
業務上で知り得た子どもの情報に関する守秘義務について全職員で周知している。	○	
保護者からの相談の内容の守秘義務について全職員で周知している。	◎	

4. 保育内容

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
子どもの発達を踏まえた保育を行っている。	◎	季節に合った歌や製作など、子どもの発達に合わせた保育を行っている。また指導計画を作成する中で子どもが主体的な取り組みができるよう職員間で意見交換しながら、保育を行っている。
遊びに入れない子どもや全体の様子に気を配っている。	○	一人一人の子どもが好きな遊びをじっくり遊べるよう見守りながら、保育士も一緒に遊ぶ。またその子のペースを把握し、「早くしなさい」と急かす言葉かけや「だめ」「いけません」等の制止の言葉を用いない保育を心がけている。
子どもがのびのびと意見や意思が表現できるような保育が行われている。	○	子どもを否定するような声掛けをしない。子どもの意思を尊重する。子ども同士のかかわりが良好となるような声掛けを心がけている。
遊びや生活を通して人間関係が育つような配慮をしている。	◎	けんかの場面では状況を適切にとらえ、双方の思いを聞き、丁寧に対応している。
遊びや生活を通して、友だちや保育士との関わりが十分持てるよう配慮されている。	○	保育者自身が、一緒に身体を動かしながら楽しんで保育している。

5. 保育環境

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
園内外が清潔で心地よい空間となっている。	◎	掃除分担チェック表を作成し、日々清潔な環境作りをしている。ゴミが落ちていたら拾う、掃くなど日々の清掃をしっかりと行っている。玩具の消毒を定期的に行う。
年齢、活動に応じた保育ができる環境である	◎	年齢ごとに仕切られた保育室で落ち着いて生活できる。ホールでは可動式壁のため、場面に応じて空間を確保できている。
子どもが落ち着いて過ごせるよう、保育室の雰囲気おもちゃの設定、工夫がされている。	○	子どもたちの手の届くところに、年齢に合ったおもちゃを用意している。また発達を促す手作りおもちゃを製作している。

6. 保護者支援

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
意見や要望などへの対応ができています。	◎	エントランスにご意見箱を設置し、意見や要望に応えるようにしている。また保護者からの意見については真摯に受け止め、状況を確認したうえで丁寧に回答し解決策については、職員全体で共有し、対応する。
保護者からの相談や悩み等、話しやすい雰囲気や態度で接している。	○	保護者の思いを理解するように努め、丁寧に対応するよう心掛けている。保護者と子どもに笑顔で挨拶をし、気持ちよい対応をしている。

7. 安全対策・健康管理

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
保育中の体調の変化やケガに対して配慮されている。	◎	安全に保育ができるよう、園庭遊びの際は保育士の立ち位置を確認、互いに声を掛け合うことをしている。マニュアルをもとに園内研修を実施し、職員間で確認をしている。
感染症の発生状況や注意事項など知らされている。	◎	毎月の保健だよりの発行。感染症発生時には、サーベイランスにて保健所にて報告。園内には感染状況を掲示する。
子どもの成長を把握している。	◎	年2回内科健診の実施。毎月、身体測定を行い、結果を保護者、栄養士、看護師と共有している。
不審者対策を行っている。	◎	防災委員会を中心に不審者侵入対応の訓練を実施。保育園門扉に電子錠を設置し暗証キーで施錠管理を行っている。

8. 給食・食育の推進

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
食育を通して子どもたちが食に興味をもてるようにしている	◎	畑で野菜を育て収穫する経験、また収穫した野菜を調理して食べる経験が食への興味を持てるよう努めている。
給食が楽しく食べられるよう工夫されている。	○	年間食育計画を立てて見通しを持った食育を行っている。旬の食材を取り入れたり、苦手意識のある食材の調理方法を工夫し提供している。
子どもの喫食状況を把握する。	○	栄養士や給食室の職員も喫食状況を見たり子どもとコミュニケーションを図り、献立や食育活動の計画に取り入れている。
アレルギー除去食の対応	◎	トレイを使用し食器をすべて個別にしている。トリプルチェックで配膳を行う。除去食献立を作成し保護者と保育者と確認する。

衛生管理の徹底	◎	衛生マニュアルに基づき徹底。正しい手洗い、白衣、帽子、マスクの着用。厨房内の衛生、掃除の徹底。
---------	---	---

9.地域支援・連携

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
小学校との連携を図る。	◎	年長組が小学校を訪問し、運動会等の行事を見学したり小学生との交流活動を行うことができた。保幼小連携の大切さを学び、遊びから自覚的な学習へ移行していけるよう取り組んでいる。
子育て支援と交流	◎	地域に向けた子育て支援「たんぼひろば」を実施。リズム運動遊びや絵本読み聞かせ等、保育園での活動内容を提供し地域の子育て中の親子に楽しんでもらえた。
地域の実態に対応した保育事業	◎	中学生の職場体験学習を受け入れ、実際の仕事を通して、子どもの成長を支えるやりがいを感じてもらおうとともに、こどもたちとの交流を楽しんでもらえるようにしている。

10.職員育成

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
職員の質の向上に努める。	○	年間を通して、職員が研修に参加し、学んだことを園内研修にてフィードバックしている。園内研修においては、各委員会でテーマを決め、それぞれ保育の場で行かせるようにしている。
社会人としての振る舞いを指導している。	○	正しい言葉使いで保護者対応や電話対応等をするなどの接遇を指導している。また職員としての自覚をもって行動、言動をする

園全体の評価

子どもが主体的に遊べる環境づくりとして、年齢に合わせた遊具の提供や子どもの興味に合わせての保育室の工夫を職員間で話し合い取り組みました。次年度も保育の振り返りを行い、引き続き子どもたちのより良い保育環境を心がけたいと思います。また、配慮が必要な子どもにとっては、専門機関の支援員の訪問を取り入れたり、個々に応じた保育を行ったが、成長につながるものなのか保護者とも共有し話し合いを持ちながら保育にあたりました。今後も研修等に参加し職員間で知識を重ね保育の質につなげたいと思います。環境面では暑い時期、園庭とプールの上に遮光ネットを設置したことで戸外活動を楽しむことができました。防災対策として安心帽を導入しました。これまで防災頭巾の着用が難しかったことや、特に未満児が自分で被ることができない状況でしたが、安心帽の導入により普段から戸外活動でも着用できることで、事故防止にもつながりました。